

# 平成29年度 流域下水道事業会計決算の概要

## 重要課題

- ▶ 事業着手から50年以上が経過し、老朽化が進む施設の修繕や改築
- ▶ 大規模地震や多発する集中豪雨等に対し、施設の機能確保や関係機関との連携強化による災害対策
- ▶ 下水汚泥の処理過程で発生するバイオガスを活用した発電など、下水道資源の有効活用

## 流域下水道事業会計のポイント

〔42都道府県の流域下水道で公営企業会計の導入は3団体（埼玉、東京、茨城）のみ（平成29年4月1日現在）〕

- ✓ 汚水処理や修繕などの「維持管理」：関係市町の処理水量に応じた維持管理負担金
- ✓ 終末処理場やポンプ場などの「設備投資」：高率（2/3又は1/2）の国庫補助金＋関係市町の建設負担金＋企業債

### 業務量

**6億6,375万立方メートル**

（1日平均：50mプールで約730杯分に相当）

- ・ 約540万人の家庭排水（BOD:100～250mg/L）等を良好な水質（BOD:1.6～4.0mg/L）にして河川へ放流  
※ BOD（年平均）：生物化学的酸素要求量。水質汚濁の代表的な指標で数値が大きいほど汚濁している。放流先の河川の環境基準は2.0～5.0mg/L以下。アユが棲める水質は3.0mg/L以下。

### 維持管理（税抜。減価償却費等を除く。）

汚水処理等の経費は約**223億円**

**財源** 市町負担金 223億円

- ・ 約2割を占める**電気料**が前年度比約7億円増加
- ・ 老朽化が著しい施設の**修繕**を前年度比約10億円増加して約83億円実施
- ・ 大規模流域等の維持管理は、(公財)埼玉県下水道公社に業務を代行
- ・ 小山川水循環センターの維持管理に包括的民間委託を新たに導入  
※ 包括的民間委託：民間の創意工夫による効率化を目的とした委託。（9つの水循環センターのうち4センターで導入）

### 設備投資（税込。翌年度繰越を除く。）

建設改良の経費は約**214億円**

**財源** 国庫補助金 108億円  
市町負担金 53億円  
県企業債 53億円

※ 前年度の繰越財源を含む

- ・ 老朽化した機械電気設備の**改築事業**等に約103億円
- ・ 現行の耐震基準に適合しない施設の**耐震化工事**等に約30億円
- ・ バイオガスを抽出する**下水汚泥の消化タンク建設**等に約33億円
- ・ チッ素とリンの除去率を高める**段階的高度処理の導入**等に約5億円  
※ 段階的高度処理：大規模な施設改造をせずに、運転方法の工夫により処理水質の向上を図るもの。

引き続き、24時間365日、絶え間なく下水道サービスを県民に提供

## 決算のポイント

- 平成29年度決算は、12億487万円の純利益、前年度に比べ約7億円の減少。
- 処理水量は過去最高で、前年度に比べ年間2,131万立方メートル、3.3%の増。  
この影響などから、関係市町の維持管理負担金は前年度に比べ約13億円の増。
- 施設・設備の長寿命化を図るため、修繕費を前年度に比べ約10億円増加して実施。
- 原油価格の動向や電気料金算定に係る制度変更などから、電気料金が前年度に比べ約7億円の増。
- 高利率の企業債の償還が進み、企業債利息が前年度に比べ約1.8億円減少。

### 損益の状況（消費税及び地方消費税を除く）

■ 収益	484億4,517万円	（対前年度比 ▲1億6,442万円）	* 維持管理負担金、一般会計繰入金等
■ 費用	472億4,030万円	（対前年度比 +5億8,463万円）	* 汚水処理や維持管理の経費、減価償却費等
■ 純利益	12億 487万円	（対前年度比 ▲7億4,905万円）	* 電気料変動等の調整財源や負担金単価への算入

### 資本的収支の状況（消費税及び地方消費税を含む）

■ 収入	228億 348万円	（対前年度比 +40億7,360万円）	* 国庫補助金、建設負担金、企業債等
■ 支出	288億9,059万円	（対前年度比 +56億 915万円）	* 施設の建設改良の経費、企業債の元利償還金等
■ 収支差	▲60億8,711万円	（対前年度比 ▲15億3,555万円）	* 不足額は損益勘定留保資金等で補填

# 平成29年度 流域下水道事業会計決算の概要

## ■ 流域下水道管内図



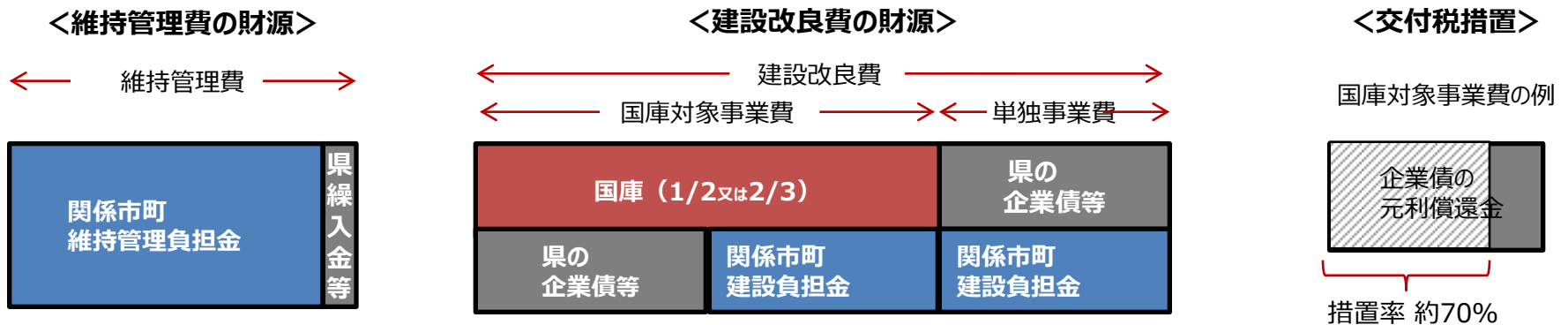
### 流域下水道とは

県内47の市や町の公共下水道をつないで下水を集め、終末処理場でまとめて処理する下水道で、県が建設し管理しています。

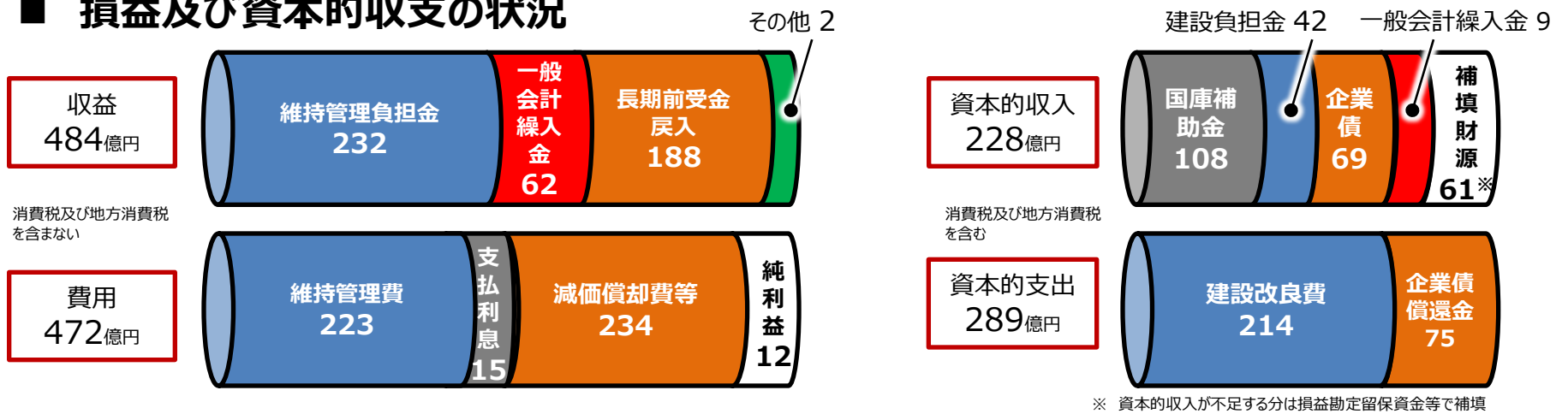
流域名	処理場	関係市町	平成29年度 年間処理水量	平成28年度末 処理人口
荒川左岸南部	荒川水循環センター	さいたま市、川口市、上尾市、蕨市、戸田市	221,863,025 m <sup>3</sup>	1,890,695 人
荒川左岸北部	元荒川水循環センター	熊谷市、行田市、鴻巣市、桶川市、北本市	52,027,178 m <sup>3</sup>	330,653 人
荒川右岸	新河岸川水循環センター	川越市、所沢市、狭山市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、川島町、吉見町	208,559,761 m <sup>3</sup>	1,613,818 人
	新河岸川上流水循環センター			
中川	中川水循環センター	さいたま市の一部、川口市の一部、春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、蓮田市、幸手市、吉川市、白岡市、伊奈町、宮代町、杉戸町、松伏町	154,113,574 m <sup>3</sup>	1,346,059 人
古利根川	古利根川水循環センター	久喜市、加須市	15,758,014 m <sup>3</sup>	111,505 人
荒川上流	荒川上流水循環センター	深谷市、寄居町	1,873,580 m <sup>3</sup>	18,228 人
市野川	市野川水循環センター	滑川町、嵐山町、小川町	4,401,587 m <sup>3</sup>	36,797 人
利根川右岸	小山川水循環センター	本庄市、美里町、神川町、上里町	5,149,895 m <sup>3</sup>	50,756 人
計	8流域 9水循環センター	47市町	663,746,614 m <sup>3</sup>	5,398,511 人

# 平成29年度 流域下水道事業会計決算の概要

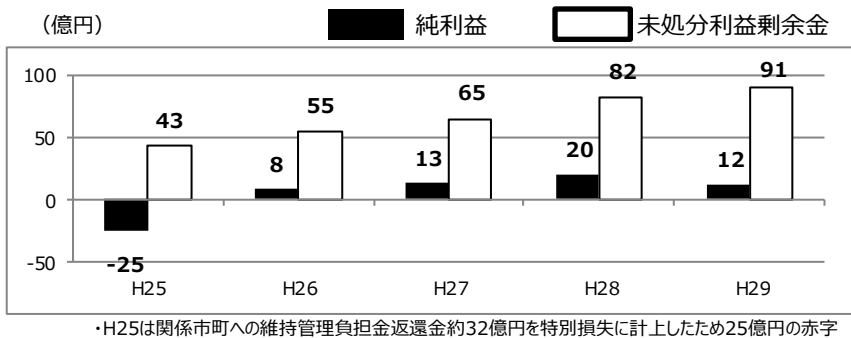
## ■ 流域下水道事業の財政構造



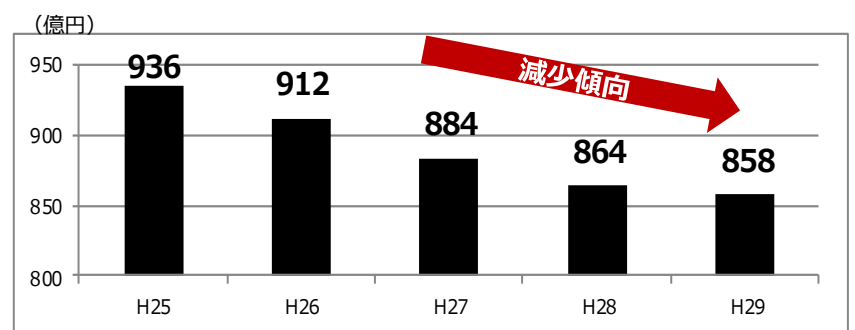
## ■ 損益及び資本的収支の状況



## ■ 損益の推移

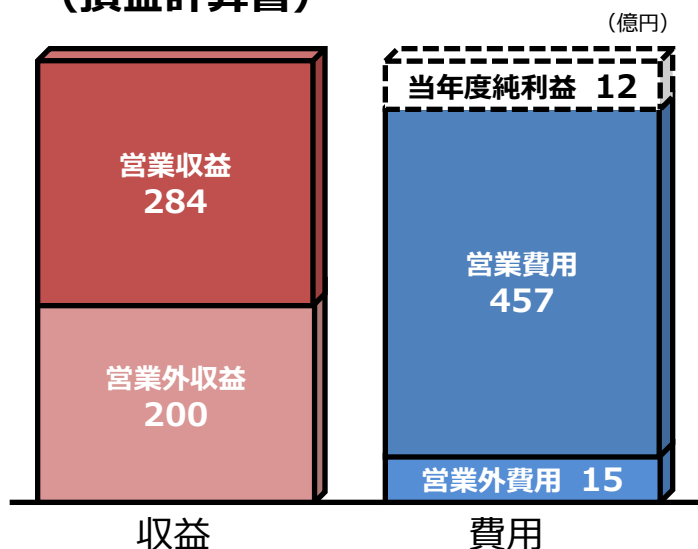


## ■ 企業債残高の推移

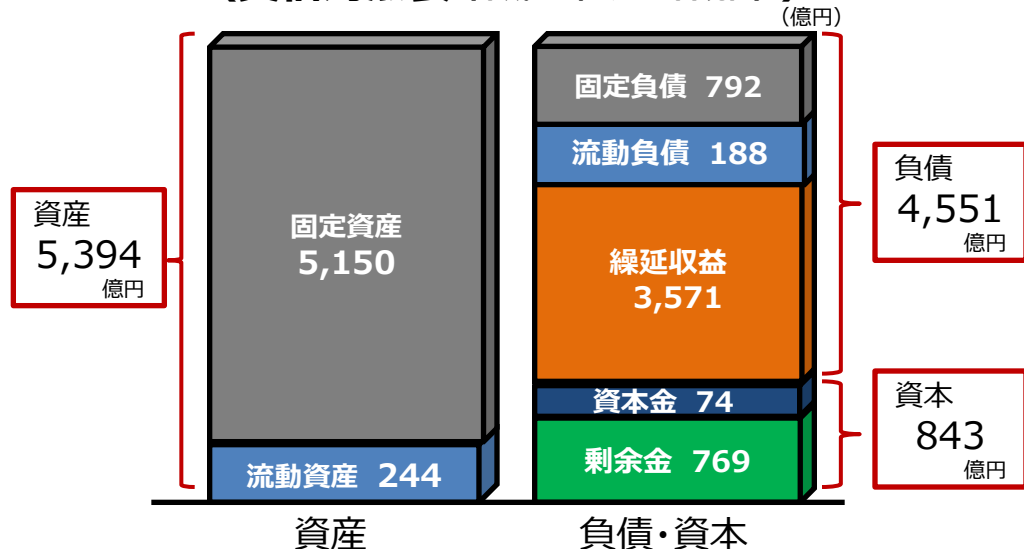


## ■ 財務諸表の概要

### (損益計算書)



### (貸借対照表 (平成30年3月31日現在))



### (キャッシュ・フロー計算書)

